

ご存じですか！文化財

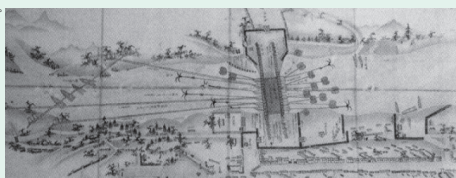
54

「日光社参房川渡船橋之絵図」

市指定有形文化財 平成13年2月22日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)



日光社参は、徳川家康の命日の4月17日に日光で行われる大祭に將軍自ら靈廟に参詣する行事です。2代秀忠が元和3(1617)年に社参してから天保14(1843)年の12代家慶まで6人の將軍が延べ19回実施しています。

当初は簡素でしたが、3代家光は寛永11(1634)年11月から東照社の大造営を行い、同13年4月に完成しました。これを機に社参も盛観を極め庶民の日光への往来も盛んになりました。正保2(1645)年には朝廷より宮号が贈られ、東照宮と改称されました。この絵図は10代家治が安永5(1776)

年4月に行った時に、中田・栗橋宿間の房川渡に臨時に架けられた船橋です。船橋は、高瀬船53艘を並べて鎖で船を連結し、その上に厚さ二寸の板と菰を敷き土砂を盛りました。絵図は略図ですが、宿場の様子および中新井村(現在の旗井)の位置が記されています。絵図は、社参の一コマを垣間見る貴重な史料となっています。

なお、この絵図は市民の方から市へ寄贈され、現在、大利根文化体育館に保存されています。



所在地 北下新井684 - 1

紹介者 小沼 良市さん(旗井)